

発達障がいを知ろう

発達障がいは、すぐに診断することは難しいとされています。それは、年齢や環境などのさまざまな要因により、一人一人の状態や目立つ症状が違うからです。また、ASDやADHDなどの特徴を、一人の人が併せ持つこともあります。大切なことは、「その人」に目を向けて、一人一人にあった支援を継続していくことです。



近年、発達障がいと診断される人が増加傾向にあり、発達障がいに対する関心が高まっています。発達障がいは、周囲にはその特性や困難な状況がわかりにくいため、本人や家族などが誤解や偏見を受けることがあります。わたしたち一人一人が正しい知識を持ち、みんなが安心して暮らせる社会づくりをしていきましょう。

問い合わせ こどもセンター 福岡 ☎@0083

どんな支援があるの？

支援の方法について、いくつか例を紹介します。

得意なことをみつける、自己理解を促す

発達障がいの人は、脳の機能により、特定の分野が「極端に得意」もしくは「極端に苦手」ということがあります。どんなことが得意で、どんなことが苦手かを、周りの人や自分自身で理解することにより、生活しやすくなるがあります。得意なこと・苦手なことを把握し、困っていることに対してどうすれば上手くいくかを、具体的に一緒に考えていくことも、支援の一つといえます。

環境を整える

発達障がいの人は、環境を調整することで、生活しやすくなったり、学習や仕事がしやすくなるがあります。

例えば「相手に注意を向けて最後まで話を聞く」ことが苦手な人の場合、言葉だけで伝えるよりも、写真や絵・文章などを交えて伝えるほうが理解しやすい、ということがあります。

その他、支援の方法や、気になることがあるときは、一人で悩まず専門機関に相談しましょう。

発達障がいとは

発達障がいは「脳の機能が関係する障がい」と言われています。詳しい原因はまだわかっていません。決して「発達が遅れている」わけではなく、親のしつけ方や、本人の努力不足が原因ではありません。発達障がいにはいくつかの種類があり、主なタイプとして以下の3つに分類されています。

ASD (自閉スペクトラム症)

人とのコミュニケーションがうまくできなかつたり、特定の物や場所に強いこだわりを示すなどの特徴があります。

2013年から、「アスペルガー症候群」および「高機能自閉症」はASDに統合されました。

[例えば]

- ▶場の空気がよむのが苦手
- ▶毎日行っている手順が変更されるとパニックを起こす
- ▶大きな音、人ごみが苦手



相談窓口はどこにあるの？

牧之原市こどもセンター

市では、平成30年4月に、総合健康福祉センターさざんか内に「こどもセンター」を開設しました。当センターでは、すべての子どもが健やかに育ち、安心して子育てができるよう、18歳未満の子どもとその家庭を、切れ目なく支援することを目指しています。臨床心理士、社会福祉士、保健師、保育士、教員資格者などの専門職を配置し、発達障がいに関する相談にも応じています。気軽に相談してください。

- ▶対象 0~18歳未満の子どもとその家族
- ▶場所 牧之原市静波991番地1 総合健康福祉センターさざんか 2階
- ▶問い合わせ ☎@0083 (午前8時15分~午後5時) *土・日・祝日、年末年始を除く

静岡県中西部発達障害者支援センター COCO

発達障害者支援法に基づき、都道府県・指定都市に設置されています。発達障がいやその疑いがある人、そのご家族が豊かな地域生活を送ることができるよう、相談に応じ、支援を行う機関です。

- ▶対象 どなたでも(年齢は問いません)
- ▶場所 島田市大川町10番地1 エフビル3階
- ▶問い合わせ ☎0547@3600 (午前9時~午後5時) *土・日・祝日、年末年始を除く

LD (学習障がい)

知的能力に遅れないにも関わらず、読む、書く、計算する、推論するなどの特定の分野に障がいが見られることをいいます。

2013年から、医学的な診断では「限局性学習症」という言い方をすることもあります。

[例えば]

- ▶文字や行をとばして読んでしまう
- ▶数を数えることはできるが計算ができない
- ▶文字を書くときに枠からはみだしてしまう

ADHD (注意欠如多動性障がい)

集中力が長続きせず注意力が散漫(不注意)、落ち着きがなくじっとしてられない(多動性)、衝動に任せて行動を起こしてしまう(衝動性)などの特徴があり、日常生活や学習に支障をきたす状態をいいます。

[例えば]

- ▶授業中、席に座ってられない
- ▶忘れ物が多い
- ▶物をなくすことが多い

